

甲南大学理工学機能分子化学科 池田研究室 “光エネルギー変換材料化学分野”

〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1
甲南大学理工学部機能分子化学科 池田研究室
Tel: 078-435-2494 FAX: 078-435-2494
E-mail: s-ikedada@konan-u.ac.jp
<http://www.chem.konan-u.ac.jp/MCP/>

前職の大阪大学（太陽エネルギー化学研究センター准教授）から2016年の4月に甲南大学に教授として着任し、研究室を構えました。学会誌編集委員会の皆様に寄稿の機会をいただきましたので、甲南大学と研究室などについて紹介させていただきます。

■甲南大学と所属学科のあらまし

甲南大学は8学部、5研究科からなる総合大学であり、神戸市の東端である東灘区岡本にメインキャンパスを構え、ポートアイランドと西宮市にもキャンパスを持っています。総合大学とはいえ、学生数は大学院生を含めても全体で約9,000人程度と、周辺の総合私立大学に比べるとコンパクトな大学です。関西では昔からハイカラな大学として有名であり、そのスクールカラーから、西の学習院大学と呼ばれ（・・・ているらしい・・・噂？、自負かも？）、学習院大学とは運動競技総合定期戦など各



甲南大学公式キャラクター「なんぼーくん」。
地元岡本でもたまに見かける六甲山のイノシシ（うりぼう）がベースになっていると思われる。本学学生（卒業生）のデザインとのこと。S県H市の「～にゃん」ではありません。
公式ツイッター：<https://twitter.com/konandaigaku>

方面での交流も行われています。歴史も長くあって、2019年4月には創立100周年を迎えました。

私の所属する理工学部機能分子化学科は、岡本キャンパスの北の端のいちばん高いところにあります（北校舎と呼ばれています。岡本メインキャンパスの離れ小島になっています）。最寄り駅（阪急岡本駅）からはもっとも遠く、夏場の通勤には着替えが欠かせません。がんばって登る分、環境はバツグンで、神戸市街を見渡せる風光明媚で閑静な高台にあります。お近くに來られた折には、お立ち寄りください。

■池田研究室について

研究室では、表題にありますとおり“光エネルギー変換材料化学分野”という分野名をいただいて、学生時代から行ってきた光触媒による水の分解反応とここ10年以上取り組んできた化合物半導体薄膜の太陽電池や光電極への応用に関する研究を行っています（研究の詳細については、研究室のHPをご覧くださいければ幸いです）。研究室には毎年5、6名程度の4年生が配属され、私の研究を一緒にこなしています。数年間お付き合いをしてきたのですが、甲南大学生は（少なくとも私の前では）真面目で、コツコツと粛々と実験を進める学生が多いという印象です。残念ながら大学院への進学者はあまり多くないですが、これまでに2名が修士課程



甲南大学北校舎（7号館）屋上からの風景。
2021年6月撮影。手前に見える建物群がメインキャンパス。奥は大阪湾（東神戸大橋）。対岸に見えるのは大阪府咲洲庁舎（多分）。



異動の際に寄贈していただいた巨大看板。
右は筆者(着任時)。石河先生(青山学院大学), 櫻井先生(筑波大学), 西岡先生(宮崎大学), 野瀬先生(京都大学), 峯元先生(立命館大学), 吉野先生, 西岡先生(宮崎大学), からいただきました。大切に磨いています。

に進学・修了し, 現在も1名の修士1年生の学生と一緒に研究を行なっています。学生にはできるだけ対外発表をしてもらいたいので, 「せっかく研究をやるなら自己満足で終わらさない方がいい」などと適当なことを言って, 学会等への参加を積極的に促しています。コロナもあって昨年度は発表の機会を逃してしまいましたが, 今年度のメンバーももちろん真面目で勤勉な(?)な学生ですので, しっかり成果を出してもらって, コロナが明けたら, 国内外の学会等に出向いてジャンジャン発表をしていただ

きたいと思っています。

研究室のスタッフは私1名と非常勤研究員として週一度来られている木村昭氏との2名です。あとは上に書いたとおりの学生のみですので, 旧帝大の研究室に比べるとずいぶん小規模なものです。そのため, 研究を進めるにあたっては, 学内と学外(国外を含む)の大学, 研究機関, 企業との連携, 共同研究を積極的に行なっています。光触媒, 光電気化学, 化合物太陽電池などの研究にご関心がありましたら, 是非ともご相談させていただきたく存じます。

■おわりに

前職の大阪大学太陽エネルギー化学研究センターでは, 助教授, 准教授として12年間お世話になりました。すでに退職されましたが, 当時研究室を主宰されていた松村道雄教授には, 教育面でも研究の上でもご指導いただきました。とくに, 現在の化合物半導体薄膜に関する研究の基本的な部分は, 松村先生とのブレインストーミングのなかで着想したものであり, その後の研究において, 技術的にも学術的にも重要な研究成果を得ることができたと思っております。本当に感謝しております。